

# 美浜で「暮らす」「過ごす」「遊ぶ」 人々の安全を。地域のみんで考える。

北谷町美浜区では「暮らす」「過ごす」「遊ぶ」人々の安全を考えることで、結果として地域住民の方々を守ることに繋がるといった観点から、特に「避難行動要支援者」「災害弱者」のケアに重きを置き、彼らの視点に立った「必要とされる防災施策」を地区防災計画に盛り込むことを目指しています。

## 美浜地区の特徴は？

金城さん：美浜区は商業地区が広く、埋め立て地部分が観光地になっています。加えて米軍基地跡地でもあることから、返還から40年という歴史の浅い地区です。県外からの移住者も多く人口は増加しているものの、高齢化が進んでいるという現状であります。

また地理的には海拔5m未満と低床地であることから、大津波発生時の災害リスクに加え、高潮・高波・地震時の液状化リスクなどが想定される地区です。

岡村：住民の方々と言うと、地元の住民に加え県内外からの移住者や基地外在住の米軍属のご家族が混在していますね。自治会への加入率も低いので「地域力」も課題の一つです。

金城さん：北谷村だった頃からの東側地区に比べて、地域住民をつなぐ「イイサー」などの文化や寄合いなんか少ないですからね。

## 地区防災計画を策定したきっかけは？

岡村さん：3.11の東日本大震災で、沖縄県にも津波注意報が発令されました。その際、避難の方法や場所も分からず道路は渋滞し混乱を招いたという経験をしました。いかに私たちの防災意識が低いか、災害に対して脆弱であるかを実感したのです。そこから「自分の命は自分で守る！」「地域は地域で守る！」を合言葉に自主防災会を軸として平常時にすべきこと、災害時に取り組むべきことを明確化するために地区防災計画の素案作成に取り掛かったのです。

金城さん：沖縄県はご存じの通り「台風銀座」ですから、住民のみさんの台風対策は習慣化しています。その一方で、地震や津波への危機感が高くない…。

岡村さん：そうですね。美浜区では比較的早い時期、平成21年には自主防災組織が発足してはいたんですが、避難訓練も実施なども次第にマンネリ化していたこともあって、改めて防災の活動を始めるきっかけにもなりましたね。

## 策定プロセスは？

岡村さん：地域内で災害対策や防災に関心がある住民を集める所からスタートしました。多種多様な防災イベントや、自由に参加できる防災Caféの実施を重ねていきました。そのころ、内閣府さんの地区防災計画策定モデル地区へ手を挙げたんです。防災への取り組みに自然と集まって下さった方々と、自治会・自主防災会のメンバーを合わせて「地区防災計画策定コアメンバー」になってもらうことができました。

防災Caféの存在も大きいと思っています。防災Caféは美浜区民に限らず、防災に興味関心がある方ならどなたでも参加していただける井戸端会議のようなプラットフォームで、参加される方はみなさん、「肩書は置いてくる。」ことだけが参加ルールなんです。実は、県や町の職員、警察、消防団、社会福祉協議会、主婦や高校生、外国人、障がい者、大学教授、気象台の方…。と多様性を持ったメンバーさんなんですけどね。みなさんが共通する課題としての「命」についてちゃんとした不安や疑問を共有したり、ご自身の専門知識を提供して下さったりする『場』になっています。



金城さん：防災Café、いいですねえ。行政だとなかなか町外の方や、有識者の方に集まって頂くのも難しいからなあ。

地区防災計画策定モデル地区のアドバイザーの先生方から、地域の災害リスクについてレクチャーを頂いて住民の方の意識も高まったと聞かれています。ワークショップもたくさんして頂いた事も防災への関心を深めたんじゃないかな？

## アドバイザーの方からの助言は？ その助言をふまえた取組とは？

金城さん：アドバイザーとしてお越しいただいた鍵屋先生と、琉球大学の神谷先生には「難しいことを分かりやすく」教えてもらうことができたので、本当に勉強になったと参加された住民のみみなさんから伺っています。

岡村さん：「地区防災計画は住民みんなで作っていくもの」という意識が参加者に浸透したと思います。防災は自主防災会や地区防災計画策定のコアメンバーだけが考えたらいいのではない、という意識が広がったと思います。

地区防災計画策定モデル地区の事業が終わってからもいくつか防災イベントを行ったのです。「まちあるき」は3回を迎えました。地区内の事業所さんを一軒ずつ訪問してAEDと車いすの設置の有無と、設置場所などの確認をしました。

金城さん：このマップは地区の方がCADを使って製作してくれたんですよ？民間事業所さんのAED設置状況が正確に把握できるマップは貴重でした。足で集めた情報ですね。消防署にも1枚頂きました。

岡村さん：このマップは本当に一から十まで、地区のみみなさんで作った成果の形になりましたね。地区内に全戸配布して、調査にご協力下さった事業者さんにもお配りしましたよ。こうした地域の防災活動に、皆さんが本当に自主的に、継続的に「楽しんで」ご参加頂けるのは、鍵屋先生の「楽しくなくっちゃ続かないよ」のお言葉があったからかもしれません。

## 行政の町内会や住民への支援は？

岡村さん：町の「防災アドバイザー」にはほぼ全ての防災イベントやワークショップに関わってもらうことができました。防災について集まるたびに、担当者さんとの関りも増えて地域のみみなさんと、行政とのつながりが深まったと感じています。前任者さんの熱意もあったと思いますが、その後を引き継いで下さっている金城さん、宮里さんにもこれからお世話になると思います(笑)訓練やイベントを行った際には、町の備蓄品を分けて下さったり…。あと、広報誌に「ちよこっと防災」を連載してもらっていて、地区のみみなさんがけっこう読んでおられたようで話題の提供にもなっていました。

## 計画策定において工夫した点は？

岡村さん：地域の住民のみみなさんに防災意識を持ってもらうための工夫がいくつかあります。「防災」という取り組みにくそな課題に対して「楽しみながら」「自分のこととして」参加してもらえよう、普段の公民館の催しとコラボレーションした企画づくりや、お子さんとその親御さんを対象にした「おやこ de 防災あそび」といったシリーズイベントを開催したりしました。



金城さん：話題になったと言えば【防災キャンプ】と【防災クリスマス】でしょうね。防災キャンプでは、当日、本当に台風が接近し中での実施だったと聞いてますが…。

岡村さん：(笑) そうなんです。もうそれは風の強い日です。夕方から公民館で水道以外のライフラインを使わない条件で1泊してもらって体験をします。「避難所屋内」「車中泊」「テント」の3つのパターンで参加してもらって、翌朝にそれぞれ体験したことを発表してもらいました。テントの一部は風で外れちゃったりしましたが(笑)



金城さん：(笑) 町の職員も家族で参加していて、みなさんが懐中電灯をヘッドライトにしたり、卓上ゲームを持ち込んで時間を過ごしたりたくさん工夫が見られたいい経験だったと言っていました。クリスマスの子供向けイベントでも防災を取り入れて楽しかされたようですね。

岡村さん：もともとクリスマス会は毎年行っていたんですけど、防災のエッセンスを入れてみようかということになって。ガスを使わずに作れるパーティーメニューとそのレシピの紹介と、障害がある人の不便さを体感できるプレゼントをあげるゲームをしました。避難所に障害を持つ人や、お年を召した方も来られるのですね。アンケートに子供たちが「困ってる人がいたら何か手伝うことありますか？って聞こうと思う」と書いてくれていて、体感するって大切だなと。

金城さん：若い人たちの助け合おうとする気持ちがいいですね。



## 計画の意義、効果は？

岡村さん：地区防災計画はまだ未完なので意義や効果はあったとまでは言えませんが、策定の過程で確実に地域住民の防災意識が向上し「自分ごと」と感じて行動に繋がったと感じています。美浜地区から、防災士資格取得を目指す人も現れ、実際に北谷町の補助を受けて、資格を取得した若い世代や女性の防災士も5名誕生しています。

また、防災に関するイベントや地区防災計画策定コアメンバーに地区在住の外国籍住民や高校生も参画していただけるようになったり、地域の社会福祉協議会、警察、消防といった共助・公助を担う皆さんとのつながりも生まれています。観光業に従事されているいらっしゃる事業所のみみなさんも防災意識が高いので、今後、もっともっと巻き込んでいきたいなあと思います。

金城さん：沖縄の人「なんくるないさあ」と危機感がどこかフワツとしているけど、こうして取り組みを続けている内に「やったほうがいいよねえ」「自分もやってみようかねえ」と集まってきてるんですね。

岡村さん：移住者さんたちの参画も大きな意味があると感じています。私たちは違う県外から引っ越してこられた方って、被災経験がなかったり、関東の方なんかはそもそも防災意識があるから「美浜にはこ

れが足りないじゃない？」とかアドバイスをくれたりして、その視点は大元だと気づきにくいからありがたいです。

金城さん：そういった方々が、地域の活動に積極的に参加して下さるのも美浜の特徴ですね。他の地域ではなかなか見られないと思いますよ。

## 今後の課題は？

岡村さん：様々な災害発生時の共通項を美浜区地区防災計画「共通編」としてテキスト型の冊子にまとめた後、個別対応編の作成にあたり、大きな2つの課題が浮かんできました。一つ目が避難行動要支援者への対策です。高齢化も今後さらに進んでいくので、地区の課題として個別避難のルールを地区防災計画へ盛り込むため、美浜区防災計画へ個別対応編として策定に取り組んでいくところですが、また、在宅避難の生活が想定されますので、各ご家庭での「受援体制」についても独自の【蛍光フラッグ】による被災者支援の仕組みづくりを進めています。実際に【蛍光フラッグ】を使った訓練も実施したいと考えています。

また対策が必要と思われるもう一つは課題は、観光地である美浜区においての「外国人と観光客」への対策です。

土地勘のない、また言葉の通じない方々へ避難を促す方法について、大きな課題となっています。今後はこうした課題への対策に取り組んでいこうと考えています。

金城さん：次年度には地区の防災士のみみなさんが、町内の小・中学校へ「コミュニティスクール」の一環として、出前講座を企画して下さいなように、私たちも支援していけたら。と考えています。

岡村さん：あとは、災害時の地区のみみなさんの安否情報の確認と、災害情報の共有にも取り組んでいかなくてはと考えています。すでにいくつか運用されているLINEグループが3つほどあるので、実際に台風の前や、遠隔地での自身の情報など「あんしん♡みはま」「防災Café」「美浜区自治会」のLINEグループで共有し始めています。

先日のトンガ海底火山噴火の時の潮位変動の際にも、このLINEグループを使って、ご高齢の女性がご近所の住民の方を察して「私が避難を呼びかけてもいい？」と連絡して下さいました。これは本当に実践で役立つ経験になりました。

金城さん：防災行政無線で津波注意報は出せますが、地域のこうした一つ一つの事案には、対応できない範囲ですから助かります。

岡村：「区長！美浜区ではどういった避難体制をとる事になってる?!」とLINEが来た時は少し焦りましたが(苦笑)これは地区防災計画を急いで完成させなきゃ！と気持ちも新たにした経験になりました。地域のルールをみなさんと共有しなくちゃ。

金城さん：私たちが、できることをできるだけサポートさせていただければと思います。



左から金城さん、岡村さん、宮里さん

取材協力：	北谷町役場総務部基・安全対策課住民安全係 防災アドバイザー 金城俊昭さん 宮里円さん
	北谷町美浜区自治会長 美浜区自主防災会事務局長 岡村悦子さん
取材日：	2022年3月23日